

岩松 了 インタビュー / ピーター・ブルック最新作 待望の来日!  
シリーズ「バッハとの対話」堤 剛 インタビュー



I Like to Move It

y with His Song

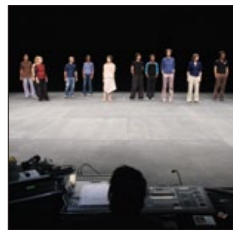
Let the Sunshinene In

# The Show Must Go On

by Jérôme Bel

Yellow Submarine

in Rose



“The Show Must Go On” — 心が張り裂けそうに悲しくても、化粧がはがれかけたとしても、ショーを続けなければならない。涙なしには聴けないバラードの名曲だが、このタイトル曲だけではない。見どころは次々に流れるポップソングを耳にしたパフォーマーの反応とアクション。日本で選ばれたパフォーマーによる日本バージョンが、初演から10年、世界で上演し続ける傑作に新たな歴史を刻む。

## INDEX

- INFORMATION** 彩の国さいたま芸術劇場、いよいよリニューアルオープン! 03
- SPECIAL** さいたまゴールド・シアター第5回公演「ルート99」  
岩松 了 インタビュー 06  
さいたまゴールド・シアターの歩み 2006 → 2011 08
- TOPIC** 待望の来日公演決定!  
『ピーター・ブルックの魔笛』 10
- PLAY** 『あゝ、荒野』 13
- DANCE** ジェローム・ベル  
『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』 14
- REVIEW** 2011.7 - 8月の彩の国のアーツ 17
- MUSIC** カレファックス・リード・クインテット 18
- MUSIC** シリーズ「バッハとの対話」  
堤 剛 インタビュー 20
- CINEMA** 2011.10 - 12 彩の国シネマスタジオ 23
- EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION 24
- THEATER BRIDGE 27

表紙:ジェローム・ベル「ザ・ショー・マスト・ゴー・オン」2004年ローマ公演 Photo:Mussacchio Lanlillo 編集:(公財)埼玉県芸術文化振興財団、佐藤 優 デザイン:Yellownotes inc.  
©(公財)埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15. September - October 2011 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation  
※掲載情報は、2011年8月20日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



## 2011年10月 彩の国さいたま芸術劇場、いよいよ リニューアルオープン!

彩の国さいたま芸術劇場では、先端的な舞台芸術の拠点として、また幅広い人々の創作の場として、1994年の開館以来、数多くのお客様に支えられ歴史を積み重ねてまいりました。この度、より安全・快適に施設をご利用いただくとともに、劇場機能を向上し、より高度な演出が可能となる舞台設備機器(舞台機構・音響・照明)への更新や高齢者や障がい者へ配慮したバリアフリー対策、劇場外壁や床面の補修などを行うリニューアル工事を実施しました。東日本大震災の影響により工事に遅れが生じ、お客様には多大なるご迷惑とご不便をおかけいたしました。劇場の役割を改めて見つめ直し、埼玉のみならず日本の財産と呼ばれる劇場を目指して、人々の心に明日への活力をもたらす作品を創造、発信してまいりますので、多くのお客様のご来場を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団



RENEWAL OPEN!

# 彩の国さいたま芸術劇場 どう生まれ変わったの？



(左)新しくなった小ホール音響卓 (右)小ホール荷解きスペースに新設されたバトン

## 劇場機能の向上

### 信頼性の増した設備へ

各ホールにおいては照明・音響設備を最新のシステムへと更新し、全ての吊物のワイヤーや油圧オイル等を交換しました。また小ホール舞台奥の荷解きスペースに照明機材などを吊るバトンを設置したほか、それぞれのホールの舞台・客席には固定バトンや新たな電源回路をもうけ、演出の自由度を高めました。

## 快適性の向上

### 落ち着いた光環境

大ホール、音楽ホールのホワイエ照明を見直し、照度ムラと眩しさの少ない柔らかい光となりました。



## 省エネルギー / 省資源

### ・照明のLED化

使用時間の長い公共スペース、ホワイエなどの一般照明、階段や通路の誘導灯をLEDの照明器具に交換。建物の消費電力を大幅に削減しました。

### ・遮光性の高いロールスクリーン

音楽ホールホワイエに光を通しつつ熱線をカットするロールスクリーンを設置しました。「光をテーマとする旋律」を重ねあわせてプリントし、やさしい木漏れ日のような効果が生まれました。

### ・施設利用パターンに対応した空調計画

施設の年間利用パターンを分析、エネルギー効率の向上をはかると同時に制御の自由度を高め、きめ細かく対応できる最適な機器に更新しました。

### ・自動水栓と照明自動点滅

全館の手洗器を自動水栓とし、水使用量を節減。水洗器具は流水による発電/充電機能がそなわった停電時にも使えるタイプとしました。また階段誘導灯やトイレの照明などはセンサーにより無人状態で減光・消灯する機器を採用し節電の一助としました。

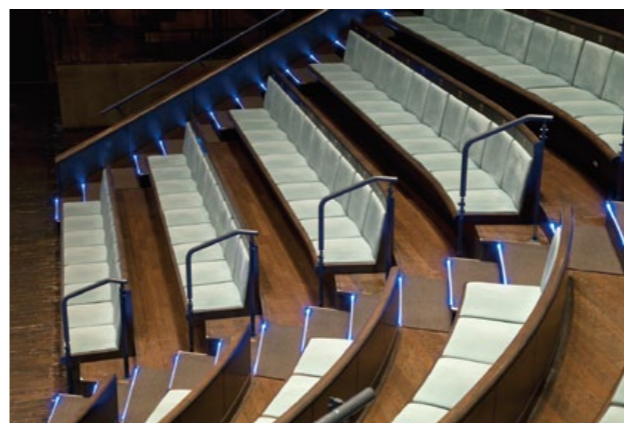


## 建物仕上の向上

### 建物の長寿命化のために

雨水の侵入を防ぐため、外壁の打放しコンクリート面の細かなクラックに樹脂を充填し、水をはじく高機能の塗装をほどこしました。音楽ホール側面の外壁には、細かくカットした大理石を張り、天然石の美しい輝きがホールへのアプローチを彩ります。

大階段横のロトンダへと続く音楽ホール側面の壁。間接照明をもうけ、落ち着きと華やきのある夜の景観が生まれました



## 安全性の向上

### ホール内の安全のために

座席と床面との気になる隙間を埋める(大ホール)、要所に新たに手すりをもうける(大ホール・小ホール)など、お客様が安心して鑑賞できるよう改善をほどこしました。また、機能上ホールの高い位置に置かれる照明機材には転倒防止用のフックとベルトをもうけ、万一の大地震時の安全をはかりました。

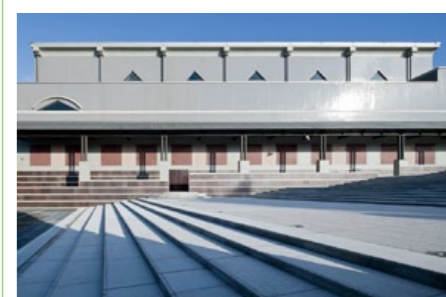
小ホール客席内の手すりと通路に組み込まれた青色LED



大ホール2Fホワイエの新設女性トイレ

## 快適性の向上 トイレの快適化

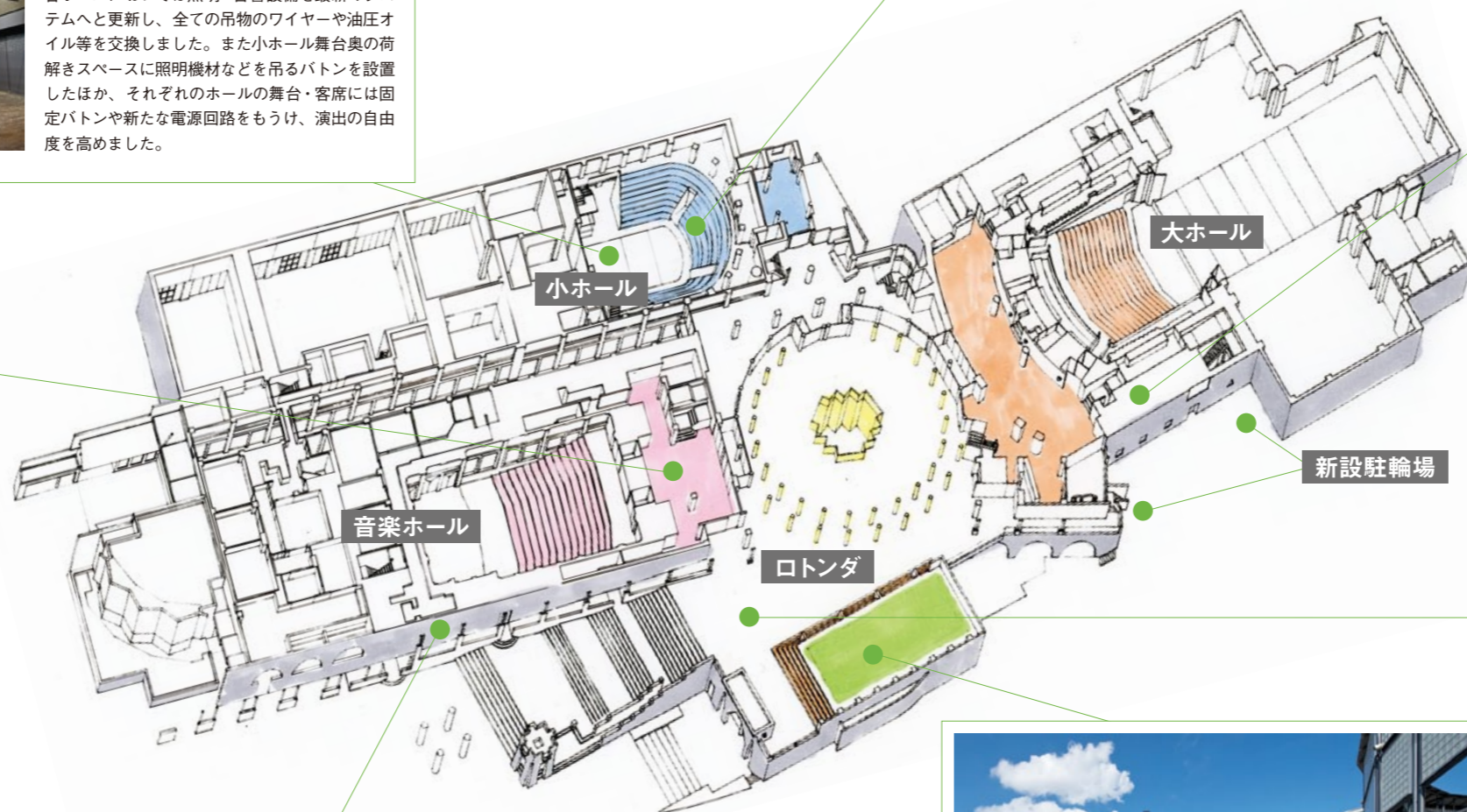
大ホールホワイエに女性用トイレを新設。多目的に使える広いブースやパウダーコーナーもつらえ、短い休憩時間でもゆとりをもって観賞できる環境を整えました。また、全館、洗浄機能付便座仕様としたほか、全ての多目的トイレの自動扉化をはかり、情報プラザにはオストメイト対応トイレをもうけました。



## 安全性の向上

### 「立体的な変化に富む動線」を安全に楽しむために

劇場へのアプローチとなる大階段～ロトンダは床面を明るい色の御影石に張替え、日没後はシンボルタワーから階段面を柔らかく照らします。また、経年劣化により生じた敷石の小さな段差を細かく補正しました。



ウッドデッキからの眺め

## 快適性の向上 劇場を快適に利用するために

映像ホール上部の芝生広場にウッドデッキを新設し、天気の良い日にはゆったりとした勾配の階段に腰をおろすことができるようになりました。また、全館のサインを見直し、重複する情報を整理、視認性の良い簡潔なデザインとしました。自転車でお越しになるお客様用に、駐輪場を2箇所新設しました。

## 記憶の継承ときめ細やかな改善を

欧米では100年、200年という時を重ねた劇場が各都市にありますが、それらに共通することは、時に大胆に建築に手を加え設備を最新のものに置き換えるなかで、過去にそこでおこなわれたパフォーマンスもふくめ、場所にしみ込んだ集団の記憶というものをも大切にしていることではないでしょうか。17年の濃密な歴史をもつこの施設においても感動の記憶が刻まれた劇場のイメージを極端に変えることは避け、ひとつひとつの工事に慎重かつきめ細かな対応を徹底しました。演劇や音楽のファンにとどまらず、これからも与野の風景のなかで多くの方達が訪れ、憩い、触発しあう場所でありつづけて欲しいと願っています。

彩の国さいたま芸術劇場 設計監理  
香山壽夫建築研究所

# 待望のさいたまゴールド・シアター最新作、 岩松了と蜷川幸雄の最強タッグが再び実現する！

公演を重ねる度に、その貪欲なモチベーションで飛躍を続けるゴールド。2007年の第1回公演で、岩松了さんの新作書き下ろしによる『船上のピクニック』を上演し、これを発端に、その後も気鋭の若手作家の書き下ろしが実現した。蜷川は「岩松さんの存在はとて大きくて、ゴールドはどこかで岩松さんに守られている」という。12月の上演にむけて、戯曲執筆真っ最中の岩松さんに話を聞いた。



## interview RYO IWAMATSU

取材・文：徳永京子 [演劇ジャーナリスト]  
Photo：大原狩行

公立劇場の芸術監督が、年齢を重ねた俳優志望者を集めてレッスンをし、公演を打つ。それはもしかしたら“事業”と呼ばれることかもしれない。だが、さいたまゴールド・シアターは、公演＝“事件”になる。きっかけとして大きいのは、第1回公演の脚本を岩松了が書いたことだろう。蜷川幸雄との当代一流クリエイターのタッグは、明らかに“攻め”の姿勢を打ち出した。記念すべきその『船上のピクニック』から4年。再びゴールドに新作を書き下ろす岩松に、『ルート99』と名付けられたその作品について聞く。

### 若者を混ぜてライバル心に火を点ける

「ゴールド・シアターも(本公演を)4回やって、そろそろ風穴を開けなきゃならない要素が出てきてると思うんです。ゴールドに限らず、同じ顔ぶれで何度かものをつくれれば、必ずそういう問題は出てくるんですけど。その対策のひとつとして、若い俳優を混ぜてみたいと蜷川さんに提案しました」

『ルート99』は軍事基地の移転問題に揺れる島が舞台。基地の中に建つ一軒の家に集まる、さまざまな思惑を抱える地元の住民、本土から来たひと組の劇団。そこに、全国紙では扱われない小さな事件のヒーローになりそこねた若者と、恋人に去られた若い女性の交流が絡む。

「若者を混ぜようと思ったのは、ライバル心みたいなものの刺激ですね。ゴールドの皆さんがそれで発奮することを期待してます。『船上の～』を書いた時、出演者の年齢が上であることをわりと意識したんですよ。でも今回は、ほとんど意識していませんね。というのは僕のせりふは、言ってみれば精神を書いているわけで、ゴールドの方達の精神って、まったく引っ込んでい



第1回公演『船上のピクニック』 Photo:宮川舞子

ないですから。平均年齢72歳とか言っても、むしろ走り回る鶏みたいに血気盛んで、笠智衆さんみたいな(いかにも年寄り風の)芝居は成立しません。年齢的なことは見た目(観客に)伝わるし、精神のほうが大切。そういう中に若い男女のラブストーリーをボンと入れると“ちょっとおもしろくないわ”って、逆に士気が上がるんじゃないかと(笑)。いや、冗談ではなく、そういうふうには風穴を開けるって大切なことなんですよ」

ストーリーを裏側から推進するのは、第二希望でもいいじゃないかと勝手に盛り立てる、周囲の人々の無責任だと言う。「恋をしている若い女性に対して“本命の男がそこにいないなら、代わりの男でいいじゃないか”と説く。最初は(恋愛よりも)生活のほうを優先して言っていたことが、そのうち、唯し立てる行為そのものに人々は熱狂していく。僕はこの作品で基地問題について何かメッセージを書くつもりはありませんが、代替案に対して熱っぽくなるしかないという問題に、その本質を捉えてみたというか、演劇として捉えていく可能性を無意識に感じたのかもしれない」

3月に東日本大震災が起き、内容を変更することも考えたが、「いろいろ考えたら、原発の問題と決して遠くはない、むしろ構造は似ていると思ったんです。つまり犠牲者と、司る立場にいる人間の構図ですね。たとえ社会的な問題を扱っても、それによって悪を懲らしめる

という発想が僕にはほとんどありません。興味があるのは、そうした問題に対するリアクションとして、人間のドラマがどう生まれるか。そのどこに我々と等しい問題があるかです。そう考えると、基地というテーマで書ける話が多いと思いました」

### 全員に日本語のせりふを渡す

前回は今回も苦労しているのは、人数の多さ。それは岩松のみならず、昨年の『聖地』を書いた松井周、一昨年の『アンドウ家の一夜』を書いたケラリーノ・サンドロヴィッチも同様で、総勢42人のメンバーが有機的につながりながら全員が活躍し、2～3時間程度で完結する物語を書くのは、かなりの力技が必要になる。「脚本を書いている横にメモを置いて“これで何人登場したから、残るは男性何人、女性何人”って、人数を数えながら書いてます(笑)」

2作目ならではのプレッシャーもある。「前回、(難民の役で)日本語のせりふを喋らせないまま終わった方が何人かいるので、今度はその人達にもちゃんと日本語のせりふを書かなきゃ顔向けができない(笑)。ただ、皆さんの人となりをよく知りませんから“この役はあの人”と役を振ってあて書きすることが不可能なんです。“あの人がこのことを言ったらおもしろいだろう”という書き方もできません。書き進めながら自分の中でひたすら登場人物を

## そろそろゴールドに風穴を開けたい — 岩松 了

構築していくという方法なんですよね。いつもに比べると、かなり探り探り書いてる感じです。……劇作家っておもしろいもので、たとえばある役にタチバナという名前がしっくり来るかどうかで1日悩んだりする。ゴールドは人数が多いから、そういう意味でも大変ですね。今のところ、いくつかの役以外、本名の苗字をそのまま役名にしておもうと思っていますが、それもまたおもしろいのではないかと考えています]

さらに注目なのが、本土から来た劇団が上演する劇中劇。忠臣蔵のサイドストーリーにアイデアを得た楽しいものになりそう。

「今のところですけど、その劇団の名前をゴールド・シアターにしたいと思っています。一応、お客さんの生理状態も考えて、ぼちぼち集中力が途切れてきたかな、という頃合いに、パッパッパッと派手な展

開のあるものを観てもらったらいいんじゃないかと。最初に「ゴールドに風穴が必要だ」と言いましたけど、これもそのひとつ。あんまり難しいことをやっても、評論家受けはいいかもしれませんが、お客さんにはそんなに届かないだろうと思うんです。大衆演劇までは行きませんが、わかりやすくおもしろく、なおかつ本筋の話とどこかでつながっているような話を書こうと思っています。アイデアはいくつかあるんですが、セットの都合もあるだろうから、これはまあ、最後に考えます]

### 現実と芝居が混じるエンディングに

3度目となる蛭川とのコンビは、適度な緊張感と安心感が程よくブレンドされているようだ。

「もうそんなに強く意識はしませんが、頭のどこかにありますね、この話は蛭川さん

が演出するというのが、やっぱり蛭川さんは、幕開けからバンッと(作品の世界観を)提示することが多いので、そこは何となく影響してるかな。例えば『船上の〜』だと、ステージいっぱいには船があって、デッキに椅子が等間隔に並んでいて……というセットが最初にビシッとある。僕の頭の中はもうちょっとガチャガチャしているから(笑)、そんなに整然としたものをあまり想像してなくて、まったく別のものとして見えて、すごく楽しかったんです。その点では今回、さっきの劇中劇をやる場所をどこでしょうかと悩めます。設定は一応、普通の民家なんですけど、その劇がいわゆる現実、それまでやってきたこの芝居の現実と同化していく形で終わらせたいので、その家のどこで芝居が始まるかはすごく重要なんですよね。そのバトンをうまく蛭川さんに渡せるよう、もうちょっと悩もうと思います]



### 岩松 了 いわまつりょう

長崎県出身。劇作家、演出家、俳優。1986年、東京乾電池「町内シリーズ三部作」を皮切りに作・演出を手がけ、89年「蒲団と達磨」で岸田國士戯曲賞を受賞。以後、数多くの作品を世に送り出す。93年「こわれゆく男」、『鳩を飼う姉妹』で紀伊國屋演劇賞個人賞、98年「テレビ・デイズ」で読売文学賞を受賞。俳優としてもテレビドラマ、映画、舞台に多数出演するほか、映画監督作品に「たみおのしあわせ」などがあり、多方面で活躍中。近年の主な作・演出作品に、『マレーヒルの幻影』『シダの群れ』『国民傘』『カスケード〜やがて時がくれば〜』など。12月に『アイドル、かくの如し』が上演予定。蛭川幸雄演出作品では『シバヤから遠く離れて』『船上のピクニック』に続き本作が3作目の書き下ろしとなる。

### STORY

基地の中に一軒の家があった。その家には、神のお告げを聞くことができる“ミラ”と呼ばれる老女と、若い姉妹が住んでいた。ある日、基地のフェンスに沿って島を南北に貫く国道、通称「ルート99」で島の名菓がバラまかれるという事件が起こる。翌日警察は商品を港へ運んでいたトラックの運転手を逮捕する。と同時に一人の映写技師が消息を絶つ。基地内の映画館で働くそのタチバナという若い男は、ミラの家で暮らす姉と密通しているのを基地内労働者に目撃されていた。タチバナに何があったのか……。事件について憶測が飛び交う中、島では本土から呼んだ劇団による演劇公演の準備が進められようとしていた。

### さいたまゴールド・シアター 第5回公演 『ルート99』

日時:12月6日(火)~20日(火) 会場:彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
作:岩松了 演出:蛭川幸雄 出演:さいたまゴールド・シアター ほか  
チケット(税込):一般3,000円 メンバーズ2,700円  
発売日:一般10月1日(土) メンバーズ9月24日(土)

12月	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
14:00															
18:30															

# さいたまゴールド・シアター 2006 → 2011

「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会うことは可能ではないか。」この蛭川の呼びかけに集まった40名を超える団員たち。結成からの5年間でダイジェストで追う。

2006.2 **団員募集** (海外からの応募を含む1,266名が応募)

2006.3 **オーディション**  
(受験者数1,011名、15日間、延べ78時間にわたって実施)



### 2006.4 さいたまゴールド・シアター 設立記者発表

団員48名(男性21名、女性27名、平均年齢66.7歳)で発足

2006.7 **中間発表公演『Pro-cess ~途上~』**



週5日の稽古に励み、初めて臨んだ成果発表。蛭川の採点は、初日55点、千秋楽80点。俳優は観客の眼差しにさらされてこそ成長するということを実感する。

Photo:幸田 森

「高齢者ゆえに持っている固有の経験のひだを通して言葉が濾過され、つたない演技でも独自の輝きを発する。」(日本経済新聞/2006.8.8./河野孝)



2006.12 **Pro-cess2**  
『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』  
(作:清水邦夫)

Photo:幸田 森

「とにかく驚いた。生意気覚悟で言うなら、まるで別の劇団だった。機敏な動き、声の張り、舞台の迫力…。前回とはすべてが違った。」(埼玉新聞/2006.12.5.)

2007.6 **第1回公演『船上のピクニック』**(作:岩松了)

ぼくらはより高度な演劇的な力を要求されるのです。だから必死です — 蛭川幸雄

当代きっての実力派劇作家・岩松了によるゴールドのための新作書き下ろしが実現。岩松戯曲の特徴である、台詞の裏に潜む人間の複雑な内面をどう表現するか、メンバーには高いハードルが課せられた。



Photo:宮川舞子

「高齢で新天地に賭けて海を渡る登場人物の高揚感と切迫した思い。演劇に挑んでいる劇団員の現実。両者が同調し、演技の巧拙を超えて観客に迫ってくる。」(朝日新聞/2007.6.26./山口宏子)



Photo:宮川舞子

2008.3 **Pro-cess3**  
『想い出の日本一万年』  
(作:清水邦夫)

2009.6 **第3回公演『アンドウ家の一夜』**  
(作:ケラリーノ・サンドロヴィッチ)

どうもぼくたちは、今までの演劇と違うことをやろうとしているらしい — 蛭川幸雄

KERA 戯曲初挑戦となる蛭川。記憶力や体力の衰えに加えて戯曲の完成が遅れ、台詞を覚えられないメンバーが続出。この逆境を受けとめて、公演初日の朝、蛭川は新たな演出プランを提案。本番中もプロンプターをつけ、「古い」という現実を抱えて舞台に立つゴールドのありのままを観客の前に提示する。



Photo:宮川舞子

「3年前に結成されるまで、ほとんどが専門的な演技経験と無縁だったのに、この演劇集団は観客を巻き込んでいく熱気を持っている。」(毎日新聞/2009.6.25./高橋豊)



Photo:宮川舞子

2008.5 **第2回公演**  
『95kgと97kgのあいだ』  
(作:清水邦夫)

10代から80代までの総勢70名以上が参加。新旧2つの世代が融合する公演で、ゴールドにしかない身体表現を印象づけた。同作品でフェスティバル/トーキョーにて初の招聘公演も果たす。

2010.9 **第4回公演『聖地』**(作:松井 周)

これはもう、ほとんど総力戦という感じですね — 蛭川幸雄

30代の劇作家×平均年齢71歳のゴールド。世代間の温度差を乗り越え、若手劇作家の中でもシニカルかつユーモラスな独特の作風をもつ松井周の戯曲にどう向きあうのか。未知の感性との出会いが、蛭川とゴールドに火を付けた。



Photo:宮川舞子

「この夏に社会的な話題となった『高齢者所在不明問題』の深層までも連想させる演劇と出合った。」(毎日新聞/2010.9.28./高橋豊)

# そして2011年12月、ゴールドに新たな風穴を開けるべく、岩松了が再び新作を書き下ろす!!

# A Magic Flute

by Peter Brook

TOPIC

## 最新作 『ピーター・ブルックの魔笛』 彩の国で待望の上演

20世紀を代表する“演劇の神様”(フィガロ紙)と呼ばれたピーター・ブルックの最新作は、モーツァルトの《魔笛》。ジグジュビール(セリフと歌を織り交ぜながら進行する芝居)として書かれたこの人気作品が、ブルック流の魔術で今までにない人間賛歌にあふれた音楽劇として生まれ変わりました。すでにパリ、ニューヨーク、ロンドン、ミラノなどで上演。フランス最高の演劇賞モリエール賞(ミュージカル部門)を受賞し、圧倒的な評判で、来日公演を果たす。



What kind of person is Peter Brook?



### 20世紀を代表する演出家 ピーター・ブルックってどんな人? その舞台、演出の魅力とは?

「えっ、ピーター・ブルックって誰?」という方から、「ピーター・ブルックって名前は知っているけど、舞台は観たことがない」、「観たことあるよ、何の飾りもない舞台で衝撃だった」という方まで、ピーター・ブルックにふれる、その入門編を。



#### 伝説の舞台『夏の夜の夢』

- A ピーター・ブルックの最新作が観られるというので、今から楽しみです。
- B 今年86歳の20世紀を代表する世界的な英国人演出家ですね。1946年にシェイクスピア記念劇場(現RSC)の史上最年少演出家となり、71年からはパリを拠点に活動しています。
- A 新たな演劇表現を追求するために、旅芸人の一座のような活動をしていたといわれていますが・・・?
- B 国籍の違う演劇人とともに、中近東、アフリカ、アメリカをまわっていました。既存の演劇のあり方に疑問を抱いたブルックは、演劇について先入観や固定概念をもたない人たちの前で、カーベットを敷き、

その上で体を動かしたり即興劇を繰り返したり。これまでの演劇を壊して、「演劇とは何か」という問いに対する答えを見つけようとしていました。

A 表現者にとっては過酷な試練ですね。言語も習慣も違う人の心を動かすというのは、並大抵のことではないですから。日本では、73年の『夏の夜の夢』(当時の邦題は『真夏の夜の夢』)が初めてですね。

B 70年にロンドンで初演されるとたちまち大センセーションを巻き起こし、1年以上にわたって異例のワールドツアーを行った作品です。もう40年近く前になりますが、いまだに語り継がれる伝説の舞台で、あの野田秀樹さんは高校生の時にこの舞台を観て、演劇の道を志したとおっしゃっていますね。

A へえ～!

B 舞台は3方向から囲まれた何の飾りもない白い壁があるだけ。そのなかでドタバタを思わせるアクション、妖精の王とパックは空中ブランコに乗って登場。揺れるブランコの上で歌い、語り、サーカスの軽業師そこのけの曲芸を披露し、祝祭性にみちた空間は驚きでした。

A この時の配役が、その後の定番になったとか・・・?

B 公爵シーシェースと女王ヒポリタを演じる役者が、それぞれ妖精の王と女王も演

じる配役は当時ほとんど前例がなく、現実と夢の世界をすりあわせた演出は、世界の演劇人をうならせました。今ではほとんどの演出がこの配役を踏襲していますが、始まりはブルックだったんです。

#### 「なにもない空間」のブルック魔術

A ピーター・ブルックというと、「なにもない空間」が代名詞になっていますね。

B 「どこでもいい、なにもない空間—それを指して、わたしは裸の舞台と呼ぼう。ひとりの人間がこのなにもない空間を歩いて横切る、もうひとりの人間がそれを見つめる—演劇行為が成り立つためには、これだけで足りるはずだ」というのは、彼の著書『なにもない空間』(晶文社)の有名な一節です。この自身の演劇論に基づき、舞台には最小限の装置と小道具しかありません。

A そのほとんど「なにもない空間」から、俳優の言葉と肉体によって豊かな世界を生み出すがゆえに、彼の舞台は「魔術的舞台」と呼ばれているんですね。

B 『夏の夜の夢』に続き、87年来日した『カルメンの悲劇』でも、舞台上に大量の砂を敷き詰め、布袋がいくつかあるだけで、そこに火を焚いたり、円を描くだけで、

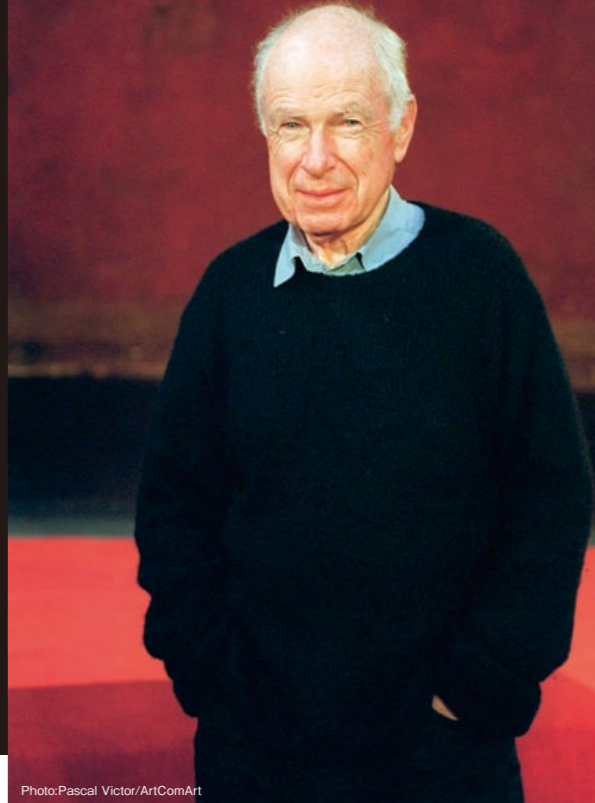


Photo:Pascal Victor/ArtComArt

Photo:Pascal Victor/ArtComArt



1988年銀座セゾン劇場開場一周年記念公演「マハーバーラタ」 撮影：谷古守正彦



1987年銀座セゾン劇場特別公演「カルメンの悲劇」 撮影：谷古守正彦

鮮やかに場面の転換を演出していました。見事なブルック魔術でした。

**A** 上演時間が9時間を超える舞台も上演したとか？

**B** 古代インドの大叙事詩を劇化した『マハーバーラタ』(88年)ですね。この舞台でもうひとつ特徴的なのが、国際色豊かな俳優たちです。日本人をはじめ、ポーラン

ド、イギリス、スイス、フランス、セネガル、ドイツ、トルコ、南アフリカなど10数カ国から50人以上の俳優が集まりました。世界各国をまわって、演劇の力を試してきた彼らにとって、言語や民族の違いは重要ではありません。特定の人間や国をこえる人類の普遍的な本質を作品から見出し、それを伝えるために、その都度一番ふさわしい形を選択していただければとブルックは言っています。

**A** この多国籍の俳優たちがまさにそれを表現していますね。

### モーツァルトの《魔笛》

**A** ブルックは、熱心なオペラファンだけでなく、誰もが楽しめるようにと、オペラの読み直しをやっているそうですね。

**B** ビゼーの人気オペラ《カルメン》を翻案した『カルメンの悲劇』がそうでしたね。彼は、オペラが人工的で、伝統にこだわりがすぎていると感じ、この物語の根底にある男女の愛という人間の基本的なテーマを、現代の観客に自然な形で届けようと思いました。歌手にオーケストラのあらゆるパートを覚えてもらい、そして、歌手が指揮棒に支配されることがないように、オーケストラを縮小し、その位置を舞台と観客の間から舞台奥へと移動しました。そうして、3カ月の稽古で物語と役の本質を自分自身に染み込ませた歌手は、舞台上で共演者や観客に自由に語りかけることが可能になったと

います。

**A** 今回はモーツァルトの《魔笛》の翻案に挑みました。

**B** 《魔笛》は「ジングシュピール」(台詞と歌で進行する芝居)として、庶民の娯楽のために書かれました。また、フリーメイソン(14世紀ごろのイングランドの石工職人たちの組合が起源とされる友愛団体)の影響があるともいわれています。

**A** 『ピーター・ブルックの魔笛』では、夜の女王に仕える侍女や3人の童子などが登場せず、普通は3時間かかる舞台を2時間弱に凝縮しているそうですね。

**B** 大げさな舞台効果やシンボリズムは排除され、舞台上にあるのは、数十本の竹の棒と1台のピアノ。歌と演技の両面から鍛え抜かれた7人の歌手と2人の俳優によって、これまでにない親密さと人間愛に満ちた《魔笛》へと生まれ変わりました。また、特筆すべきは音楽で、オーケストラの編曲にとどまらず、《魔笛》以外のモーツァルトの楽曲を導入し、要所にアクセントと深みを与えています。

**A** クラシック音楽界の巨匠モーツァルトと、演劇界の巨匠ピーター・ブルック。この2人が生み出す『ピーター・ブルックの魔笛』の来日公演が待ち遠しいですね。



© J.M. Pukkum 2010

#### 『ピーター・ブルックの魔笛』

※ドイツ語(歌)・フランス語(台詞)上演<日本語字幕付>

日時：2012年3月22日(木)～25日(日) 2012年3月22 23 24 25

※上演時間約1時間40分(休憩なし)

曜日	木	金	土	日
15:00			●	●
19:30	●	●	●	●

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

演出：ピーター・ブルック

音楽：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

翻案：ピーター・ブルック、フランク・クラウチック、マリー=エレヌ・エティエンヌ

チケット(税込)：一般 S席8,000円/A席5,000円/学生A席3,000円  
メンバーズ S席7,200円/A席4,500円

発売日：一般12月3日(土) メンバーズ11月26日(土)

### ピーター・ブルックの足跡

- 1925 亡命ロシア人の次男としてロンドンに生まれる
- 1943 オックスフォード大学在学中、アマチュア劇団で「フォースタス博士」初演出
- 1946 ストラットフォード・アボン・エイヴオンのシェイクスピア記念劇場(現 RSC) の歴史上、最年少で「恋の骨折り損」演出
- 1948 コヴェント・ガーデンのロイヤル・オペラ・ハウスの演出家に就任、オペラ「ボリス・ゴドゥノフ」演出
- 1962 「リア王」演出(63年ハリ国際演劇祭グランプリ)
- 1971 バリで国際演劇研究センター (C.I.R.T) 設立
- 1974 国際演劇創造センター (C.I.C.T) と改称、プフ・デュ・ノール劇場開設
- 1975 バリで「集団創作」についての国際シンポジウムに参加、ジャン=ルイ・バロー、タデウシュ・カントール、アリアヌヌ・ヌーシェキン、ペーター・ヴァイス、寺山修司らも参加
- 2011 「ピーター・ブルックの魔笛」で、仏モリエール賞(ミュージカル部門)、演劇活動全体に対してモリエール栄誉賞受賞

※本文中に記した以外の来日公演として、「桜の国」(89年)、「テンペスト」(91年)、「しあわせな日々」(97年)、「ドン・ジョヴァンニ」(99年)、「ザ・マン・フォー」(99年)、「ハムレットの悲劇」(2001年)がある。

# 寺山修司の長編小説、蛭川幸雄の演出で初の舞台化 ボクシングで魂を通わせる二人の男の 青春の物語に、松本 潤、小出恵介が挑む

## あゝ、荒野



偽りの繁栄も崩れ去り、日本中が荒野になってしまった今をもう一度生き直すためにも、ある種のレクイエムとして、ちゃんと語り継いでいきたい。 —蛭川幸雄

撮影：森山大道

寺山修司と蛭川幸雄をつなぐ町「新宿」。1960～70年代の新宿は、フーテンとよばれる若者がたむろし、新宿駅西口ではフォークゲリラが大衆を扇動、学生運動の熱気や、鬱屈したエネルギーがひしめく町だった。戦後日本のカウンターカルチャーの拠点として若き才能が集まる町でもあり、名曲喫茶の先駆けである風月堂には寺山が、ATG新宿文化では蛭川が映画上映後のスクリーン前の狭い舞台で芝居を上演していた。『あゝ、荒野』は、66年に寺山が初めて手掛けた長編小説であり、「新宿」という荒野に生きる人々の物語である。

強靱な肉体を持ち自分の可能性を強く信じる(新宿新次)と、どもりに悩み他人と距離を置く(バリカン)という正反対の青年が、「片目のコーチ」が経営するボクシングジムで出会い、奇妙な友情関係を築いていく。寺山は当時流行の歌謡曲や、小説や詩のフレーズを散りばめ、自らの空白を埋めようと人とのつながりを求める者たち、ボクシングという直接体と体が触れあう行為をものさしに、自己と他人の距離感を確認する者たちの姿を浮かび上がらせた。寺山が「モダンジャズの手法によって」書き上げたという本作には、演劇人であるとともに、詩人、エッセイスト、小説家、評論家、作詞家、映画監督、歌人として唯一無二の存在感を放った寺山ならではの美学や思想、ドラマツルギーがふんだんに盛り込まれている。

この世界観を体現する強力な俳優がそろった。<新宿新次>に国民の人気グループ「嵐」の松本潤、<バリカン>に映画・ドラマでの活躍が顕著な小出恵介、二人とも蛭川演出は二度目となる期待の実力派だ。<片目のコーチ>に蛭川作品に欠くことのできないエネルギーを持つ勝村政信を迎え、黒木華、渡辺真起子、村杉蟬之介、江口のりこ、シェイクスピアのオールメール・シリーズ常連の月川悠貴、さらに石井愼一、立石涼子など舞台に奥行きをもたせる芸達者たちの出演も決まり、個性と演技力を兼ね備えた頼もしい顔ぶれだ。

寺山と蛭川の組み合わせは、『身毒丸』(1995年初演/彩の国さいたま芸術劇場)、『血は立ったまま眠っている』(2010年/Bunkamuraシアターコクーン)に続き3作目。『血は立ったまま眠っている』で蛭川は、安保闘争の時代に底辺社会に生きる人間の葛藤と内に秘める怒りを瑞々しく描いた。いつの時代の戯曲でも、蛭川は当時の空気を舞台に立ちのぼらせ、その生々しさは当時と今をつなぎ、私たちの感覚を刺激する。『あゝ、荒野』でも、舞台に立ちこめるひりつくような空気が、現在を生きる私たちを覚醒させてくれるに違いない。

#### 【あらすじ】

架空の昭和の街、「新宿」。荒ぶる魂と強靱な肉体を持って余す<新宿新次>は、元ボクサー<片目のコーチ>に誘われて入ったボクシングジムで、ともりの青年<バリカン>と出会う。両極といえる生き方をもつ二人の青年は、ボクシングを通じて互いに認め合い、奇妙に振れた友情を結んでいく…。平凡な欲望を持ち夢見る奔放な女<芳子>、経営の成功者・人生の失敗者<スーパーたんぼ>の社長<宮木>、たくましく生きる傭婦たち、そこにどこか牧歌的で狂騒的な<自殺研究会>の面々が絡み合い、物語は次第に熱を帯び、疾走していく。

### 『あゝ、荒野』

日時：10月29日(土)～11月6日(日) 会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

原作：寺山修司 脚本：夕暮マリー 演出：蛭川幸雄 音楽：朝比奈尚行

出演：松本潤、小出恵介、勝村政信、黒木華、渡辺真起子、村杉蟬之介、江口のりこ、月川悠貴、立石涼子、石井愼一 ほか

チケット(税込)：一般・メンバーズ S席10,500円/A席9,500円

発売日：一般・メンバーズ 9月23日(金・祝)

※電話による抽選での購入お申込みは既に締切りしました。

※財団チケットセンター、劇場窓口、インターネット(SAF Online Ticket)での受付・抽選結果発表・販売はございません。

※本公演は財団メンバーズの先行発売はございません。予めご了承ください。

【購入方法】通常の公演と購入方法が異なります。詳しくはP.25の前売情報をご確認ください。

【本公演に関するお問合せ】Bunkamura 03-3477-3244 (10:00～19:00)

10月	29	30	31	11月	1	2	3	4	5	6
曜日	土	日	月	火	水	木	祝	金	土	日
11:30								●		
13:00				休	休	休		●		
18:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

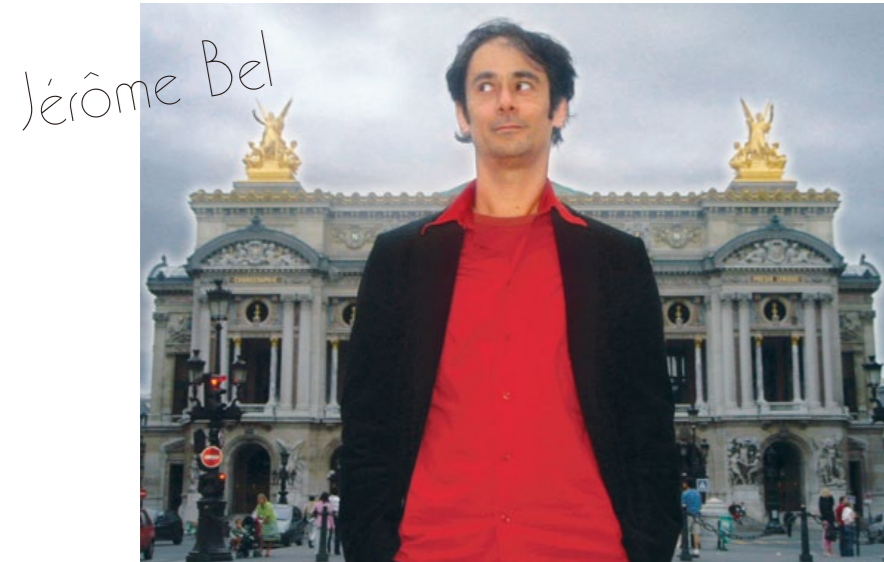
# このうえなくポップで、反スペクタクル ダンス界の異オジェローム・ベルの傑作に 日本で選ばれた26人のパフォーマーが挑む!

世界50都市以上で、そこに住む人々をパフォーマーに上演を続ける『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』。初演から10年、待ちに待った日本バージョンが上演される。舞台上に流れる超有名なポップソングと公募で集まったパフォーマーたち。これらを材料に、ベルのウィットに富んだ視線が加わったこの作品が、観客に問いかけるものは――。



注:表紙およびP14～16の舞台写真は2004年ローマ公演のもので、今回の日本版キャストとは異なります。 Photo:Mussacchio Laniello

# The Show Must Go On



Jérôme Bel

Photo:Ferani McRope

1964年フランス生まれ。世界的に活躍するダンサー、振付・演出家。身体表現に説明的な言葉を織り交ぜたコンセプチュアルな作品で知られる。94年に最初の振付作品を発表して以来、多数の作品を発表。2004年にはパリ・オペラ座バレエ団に招かれ『ヴェロニク・ドワノー』を上演。01年に発表した代表作『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』は、05年のニューヨーク公演においてベッシー賞を受賞。

## ジェローム・ベルが語る “ザ・ショー・マスト・ゴー・オン” 誕生から今日まで

——今回の作品は一体どこから着想を得たのでしょうか。

もともとはダンサーと役者の両方が出演する作品を作ることになっていました。そこで私は、ダンサーと関わりのある「音楽」と、役者と関わりのある「言葉」の、そのどちらもあわせ持つ「歌」を使うアイデアを思い付きました。そして、誰でもパフォーマーになることができ、観客の誰でも理解できるようにと、コンセプトを絞っていきました。こういう理由で、誰もが慣れ親しんでいるとても有名なポップソングだけを使うことに決めたのです。そして選曲は、自分が面白いと思える演劇的もしくはダンス的なシーンを創れるかどうかを基準にし

ました。歌自体は作品の目的ではなく、自分が面白いと思えるシチュエーションを創り出すための道具にすぎません。

——パリでの初演時、この作品は観客の物議を醸しました。しかし、今や世界50都市以上で上演され、リヨン・オペラ座バレエ団のレパートリー作品にもなりました。何が起るかは誰にもわかりません。作品は、認められれば批判から守られると思っていましたが、当時はそうなりません。しかし今も初演と変わらない形で上演していますが、この10年で私はこの作品をより強く信じられるようになってきています。この作品には潜在的な力があり、

今日に至っても上演する意義を持っていると思います。でもそれは僕にとってであって、もちろん観客がこの作品を嫌う可能性もあります。それで全く構いません。私は劇場での体験を提供するだけで、それを受け取るか受け取らないかは観客次第ですから。

——ある時からこの作品は、公演する都市で生活する人々を集めて上演しています。数年前に、オリジナルとは異なるパフォーマーで作品を上演することに決めましたが、これは最初エコを考えたからでした。この作品は、20から30人もの出演者を必要とし、私はこの大人数で海外をまわ

るのに罪悪感を抱いていました。そして、ヨーロッパ以外の都市で上演しようとした時に、この方法を思い付いたのです。パフォーマーは観客を映し出す鏡でもあります。1000人ものアジアや南米の人々の目の前に、ヨーロッパ出身のパフォーマー達を出しても何ら関係性は持てません。身体や仕草がパフォーマーたちと全く違うのですから。そして、同じ作品の上演でも、パフォーマーや観客の雰囲気によって異なってくるのです。今回の日本バージョンでは26人のパフォーマーに集まっていたのですが、彼らと日本の観客を前に、この作品が一体どうなるのか、とても楽しみにしています。



## 239人の応募から選ばれた 26人のパフォーマー

上演する地域に住む人々の中からパフォーマーを募る“ザ・ショー・マスト・ゴー・オン”。もちろん、今回の日本バージョンでもパフォーマーを公募。239人の応募者から選ばれたのは、男性13人、女性13人の26人。年齢は17歳から67歳と幅広く、職業もダンサーや俳優、学生、主婦、フリーターなど、出自もルックスもさまざま。



## SET LIST

舞台上に次々と流れるポップソングの一部をご紹介します。CMや映画で聞き慣れた曲がほとんどだが、日本ではあまり知られていない曲もあるかもしれない。この機会にじっくり聴き直してみると、新たな発見があるかも?!



『Let the Sunshine In』 — 『ヘア』より  
ベトナム戦争時に上演され、アメリカ社会に多大な影響を及ぼした反戦・反体制ミュージカル『ヘア』のフィナーレを飾る名曲。光と平和を願い求めて歌われるこの曲は1969年グラミー賞を受賞。



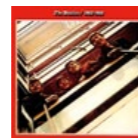
『I Like to Move It』 — Reel 2 Real  
1994年に発表されたダンス・ミュージック。オーストラリアのナショナル・バスケット・リーグやイギリスのチューインガムなど様々な宣伝や、映画『マダガスカル』にも使用されている。



『Macarena (恋のマカレナ)』 — ロス・デル・リオ  
スペイン出身のグループ「ロス・デル・リオ」が1993年に発表し世界的に大ヒット。セクシーに腰を動かす「マカレナ・ダンス」も注目され、日本でも例外なく大流行。



『My Heart Will Go On』 — セリーヌ・ディオン  
『アバター』に抜かれるまで世界興行収入1位、アカデミー賞11部門制覇の超大作映画『タイタニック』の主題歌。ほとんどの人が一瞬間ただで分かるのでは?と思うほどの超有名曲。



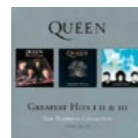
『Yellow Submarine』 — ビートルズ  
1966年に発表した子どものための歌で、アニメ映画『イエロー・サブマリン』のテーマ曲ともなった。リード・ヴォーカルのリンゴと楽曲の雰囲気は抜群にマッチした賑やかで楽しい歌。



『La Vie En Rose』 — エディット・ピアフ  
世界中で愛されるシャンソン歌手ピアフが1946年に発表。日本では『バラ色の人生』の曲名でも知られている。



『Killing Me Softly with His Song (やさしく歌って)』 — ロバータ・フラック  
日本ではネスカフェのCMソングに起用されたことでよく知られることとなった。邦題で渡辺美里や南沙織、本田美奈子らがカバーしている。



『The Show Must Go On』 — クイーン  
エイズに冒され体調が悪化していたフレディ・マーキュリーが、自らの存在意義を「(何があっても)ショーを続けなければならない」という詞に込め全身全霊で歌いあげた、最後にして最高の傑作。

曲名/CDタイトル/レーベル:(左段上から)Let the Sunshine in/HAIR/RCA VICTOR、I Like to Move it/Move it/SACEM、Macarena/Dance D'or 97/SACEM、(右段上から)My Heart Will Go On/My Heart Will Go On (Love Theme from Titanic)/Sony Music Columbia、Yellow Submarine/The Beatles 1962-1966/EMI Records、La Vie En Rose/Edith Piaf La Vie En Rose/EMI、Killing Me Softly With His Song/The Best of Roberta Flack/Atlantic、The Show Must Go On/Queen Greatest Hits 2/Parlophone(以上、全て輸入盤)

### ジェローム・ベル『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』

日時: 11月12日(土)~13日(日) 各日開演16:00  
※上演時間: 約90分/途中休憩なし ※12日(土)公演終了後、ジェローム・ベルによるアフタートークあり  
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール 構成・演出: ジェローム・ベル  
『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』日本版キャスト:  
東丸、足立智美、五十嵐萌、今井尋也、太田ゆかり、岡田智代、川村知也、佐々木香弥、篠田千明、篠村博昭、タケヤアケミ、田代絵麻、鄭順榮、富田大介、直江早苗、長坂美智子、長谷川寧、林亮佑、藤沢紀子、藤田一樹、前澤香苗、ますだいつこう、松澤輝朝、マルタン・ジャン・フィリップ、山口恵理香、リー・アルド  
チケット(税込): 一般 前売3,000円/当日3,500円 学生(前売・当日とも)2,500円  
メンバーズ 前売2,700円/当日3,200円  
共同主催: フェスティバル/トーキョー



## Review 2011.7-8の彩の国のアーツ



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 7月3日

### NHK交響楽団

パブロ・ヘラス=カサド(指揮) 神尾真由子(ヴァイオリン)  
チャイコフスキー・コンクール優勝者の神尾真由子さんによるチャイコフスキーの《ヴァイオリン協奏曲》。今年ベルリン・フィルへのデビューを果たす新鋭指揮者パブロ・ヘラス=カサドとの初共演で、息のあった演奏を披露していただきました。シベリウスの《交響曲第2番》も入魂の演奏。



Photo: 加藤英弘

■ MUSIC 7月31日

### 埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ

飯森範親さんと東京交響楽団、そしてMCの朝岡 聡さんによる、毎年恒例の夏休み公演。今年は中学1年生のピアニスト 藤田真央くんも加わり、聴いて歌って演奏して、オーケストラの魅力をたっぷり堪能しました。



Photo: Matron

■ DANCE 8月9日~11日

### 熊谷会館バレエ・セミナー

日本を代表する現役トップ・ダンサーの指導を受けに、多くの受講生が集まりました。細かな身体の使い方から実際に作品を踊るときの表現まで、日本を代表するプリマ・バレリーナの酒井はなさんに丁寧に教えていただきました。



Photo: 宮川舞子

■ DANCE 7月23日

### 日本昔ばなしのダンス

### 近藤良平『ねずみのすもう』/伊藤千枝『へっこきよめ』

シリーズ第1弾で誕生し、その後も全国巡演をくりかえす人気の2作品を、埼玉県立近代美術館にて上演。7月28日には、三郷市立瑞沼市民センターでも上演、埼玉県内に避難中の東日本大震災被災者をご招待しました。



Photo: 渡部幸弘

■ PLAY 8月26日~9月6日

### 『身毒丸』(天王洲 銀河劇場)

主要キャストを一新、大竹しのぶさん、矢野聖人さん、六平直政さんを迎えました。大竹さんの演技をみた蛭川さんが稽古途中に台本を変更。狂気にいたる女性の悲劇が明確になり、新たな撫子像が誕生。

# リード楽器旋風、カレファックスついに上陸

ワクワク感満載の、最高にカッコイイ5人組がやって来る。その名はカレファックス・リード・クインテット。5人5様、5種のリード楽器を自在に操り、絶妙のアンサンブルで奏でる曲の数々は、聴く人を新たな音の世界に誘う。彼らのお洒落で、絶妙のアンサンブルで奏でる曲の数々は、誰もがリード楽器の虜になるに違いない。もちろんそれぞれに魅力的な5人のリードマンの虜にも。



Photo:Deen van Meer

## 時代とジャンルの壁を超えて、新しい音の世界を体験させてくれる5人組

文：片桐卓也 [音楽ライター]

オランダからやって来る5人組の管楽器アンサンブル「カレファックス・リード・クインテット」。彼らが世界中で賞賛されているのは、クラシック音楽をベースにしながら、まったく想像もつかない音の世界を作り出しているからに違いない。たった5本のリード楽器でこんなに多彩な世界が作れるのか、という驚き。彼らの演奏を聴

いた人たちはすぐその魅力の虜になる。彼らが「ウケる」理由は、どんなところにあるのだろうか？ その前にリード楽器について簡単に説明しておこう。リードとは「葦」を語源とする言葉だ。エジプトやトルコなど西アジア、中東地域では古くからその葦を使った管楽器が使われてきた。現在でもトルコのズルナ、エジブ

トのミズマルなどリード楽器として重要な役割を持っているし、日本では箏が同種の楽器である。リード楽器はいつしか西欧に伝わり、中世からバロック時代にかけて多くの楽器製作者がそれぞれに改良を加えて、現在のオーボエ、ファゴット(バスーン)が誕生した。その後近代までにクラリネット、サクソフォーンなどが誕生し

た。そしてオーケストラやブラスバンドの中で重要な役割を持つようになっていった。厳密に言うと、リード楽器にはいくつかの種類があるが、古い時代からの伝統を受け継ぐオーボエ(イングリッシュホルンも)、ファゴット、それにバグパイプなどはリードを2枚重ねる「ダブルリード」、クラリネットやサクソフォーンは1枚のリードを使うので「シングルリード」と分けられている。クラシック音楽の世界ではオーボエはバロック時代から活躍し、その後ファゴットとクラリネットが加わり、サクソフォーンは最も新参者ということになる。そうした歴史を踏まえて、カレファックス・リード・クインテットのレパートリーは古楽から現代の新作まで、とても幅広い。

### ルネサンスから現代の作品まで 選曲も演奏も変幻自在

今回の来日公演では、カレファックス・リード・クインテットの飽くなき探求心が感じられる幅広い時代の作品が演奏される予定だ。最も古いのはイタリア・ルネサンス期の作曲家ベンドゥージ(16世紀)で、バロック時代のヴィヴァルディ、そしてバロック時代のスタイルを用いて書かれたグリーグの《ホルベアの時代から》も加わる。これはホルベア(デンマーク文学の父と呼ばれる作家。1684～1754)の生きた時代の様々な音楽からインスピレーションを得た作品なのである。

ロマン派時代の作品としてはメンデルスゾーン、リヒャルト・シュトラウス。メンデルスゾーンの序曲《フィンガルの洞窟》はオーケストラ曲として有名な作品。リヒャルト・シュトラウスもそうだが、こちらは管楽器が大活躍する作品として有名で、様々な編曲によっても演奏されている。最初にいたずら者の主人公ティルが登場する時はホルンなのだが、彼の笑いはクラリネットで表現される。俗物の学者はファゴットで表現され、ティルと会話する。そんな面白い作品、また管楽器奏者にとってはやり甲斐のある作品だ。

現代の作品としてはバルトークとピアソラ。バルトークはハンガリーの作曲家だが、同僚のコダーイと一緒にハンガリーや

ルーマニアの田舎に残る民謡を採集して、それを音楽に活かした。《ルーマニア民俗舞曲》はそんなバルトークの中でもよく演奏される作品で、最初はピアノ版だったが、その後管弦楽版となり、他にもヴァイオリンとピアノ版でよく演奏されている。ピアソラは言うまでもなく、20世紀のアルゼンチン・タンゴ界をリードし、さらに多くの作曲家、演奏家にも影響を与えた存在である。《フガータ》は1969年のアルバムに収録された組曲《タンガータ》の中の1曲。その名の通り、フーガ風にバンドネオンとヴァイオリンが語り合う作品である。

### ユニーク中の超ユニーク これワクワクしなければウソ

カレファックス・リード・クインテットの魅力は、こうした作品の幅広さだけではない。オリジナル作品はさらに彼らの魅力をおしえてくれるもの。メンバーのひとりであるアルバン・ウェスリー(カレファックスの共同創設者のひとり。ファゴット奏者)による《コント》は、ほとんどが組立式であるリード楽器の特徴を、実際に演奏会場でその組立を見せつつ演奏することで教えてくれる作品だ。また演奏会まで分からないサプライズ作品も用意されている。

カレファックス・リード・クインテットはオランダのアンサンブルだが、オランダという国にはこうしたユニークなアンサンブルがたくさんある。しかも弦楽器だけでなく、管楽器のアンサンブルが多い



Photo:Deen Van Meer

### CALEFAX REED QUINTET

「ポップスのメンタリティを備えたクラシック・アンサンブル」と評され、その技術、革新的なプログラミング、そして魅力的なコンサートで知られている。レパートリーは8世紀から現代の音楽におよび、自らで編曲、再作曲を行う。演奏の質の高さで国際的に認知され、ヨーロッパの様々な現代音楽祭や古楽フェスティバルにも参加。10-11年は結成25周年を迎え、オランダ国内のみならず、ヨーロッパ各国でのプロジェクトを予定しており、25周年記念CD「CALEFAX」をリリース。

のだ。ルネサンス、バロック時代の音楽を率先して復興してきたオランダならではの、と言えるかもしれない。その中でもカレファックス・リード・クインテットの演奏は、単に上手いだけでなく、音楽そのものへの興味をかき立ててくれるようなワクワク感に満ちている。それがクラシック・ファンだけでなく、多くの音楽ファンを惹きつけている理由なのだろう。一緒に彼らの演奏を楽しもう。



Photo:Rob Marinissen

### カレファックス・リード・クインテット

日時：11月5日(土) 開演16:00 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
 出演：オリヴァー・ブックホルン(オーボエ)、イーヴァル・ベリックス(クラリネット)、ラフ・ヘッケマ(サクソフォーン)、イェルテ・アルタウス(バス・クラリネット)、アルバン・ウェスリー(ファゴット)  
 曲目：アルバン・ウェスリー：コント～リード楽器が組み立てられ、アンサンブルができるまで～  
 メンデルスゾーン(J.アルタウス編曲)：序曲《フィンガルの洞窟》  
 サプライズ・ピース：※当日のお楽しみ曲  
 グリーグ(R.ヘッケマ編曲)：ホルベアの時代から(ホルベルク組曲)  
 フランチェスコ・ベンドゥージ(A.ウェスリー編曲)：新鮮な草木の上で/ラ・モニーナ  
 ヴィヴァルディ(R.ヘッケマ編曲)：合奏協奏曲集《調和の靈感》作品3より 第11番 二短調 RV 565  
 R.シュトラウス(O.ブックホルン編曲)：交響詩《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》  
 バルトーク(R.ヘッケマ編曲)：ルーマニア民俗舞曲 ピアソラ(J.アルタウス編曲)：フガータ  
 チケット(税込)：一般3,500円 学生1,500円 メンバーズ：3,200円



Series *Dialog with Bach*

Photo:K.Miura

シリーズ「バッハとの対話」



## 堤 剛のバッハを聴く

【Vol.1&Vol.2】堤 剛 無伴奏チェロ組曲全曲演奏会

今シーズンの彩の国音楽ホール、5回にわたる注目のシリーズ企画「バッハとの対話」がいよいよ始まる。チェリストの堤 剛、ヴァイオリニストの寺神戸 亮、そしてピアニストの小山実稚恵という、3人の日本を代表する演奏家が、それぞれのバッハへの思いを楽曲に託して奏でる贅沢なシリーズだ。去る6月、その先陣を切る堤 剛さんに抱負を伺った。

2011年12月～12年2月にかけて行われる「バッハとの対話」シリーズ。その劈頭を飾るのが、2日がかりで全6曲の無伴奏チェロ組曲に挑む堤 剛さんだ。1942年生まれの前さんは、小澤征爾らを育てた伝説的教育者・齋藤秀雄に師事し、アメリカ留学後は名手ヤーノシュ・シュタルケルから薫陶を受けた日本音楽界の重鎮。日本芸術院会員、桐朋学園大学学長などの重責を務める傍ら、現在もきわめて活発な演奏活動を続行中である。

この作品との出会いは、子供の頃に両親から初めて買ってもらったパブロ・カザルスのレコードです。当時は78回転のSP盤で、1つの楽章を聴くのに3回も盤を取り替えなければならないような代物でした。第3番でしたが、バッハの音楽自体に触れたのもそれが最初です。チェロを始めて間もない時分ですから技術的なことはわ

## interview *Tsuyoshi Tsutsumi*

取材・文：吉村 溪【音楽評論】 Photo:横田敦史

からなかったものの「世の中にはすごい音楽があるんだな」と、とても強い感銘を受けたことを憶えています。そのカザルスの音や解釈はいつまでも自分の中に残っている気がしますね。実はもうすぐ彼の生まれたエル・ベンドレル(El Vendrell)という街で開かれるカザルス・フェスティバルに招かれて行くんですが、半ば忘れ去られていたこの組曲を、彼がその街の古ぼけた骨董屋さんで“再発見”したことを考えると、そこへ自分が行けることにも何か不思議なご縁を感じます。

カザルスでバッハに開眼した堤少年を、さらなる高みへと導いたのが師・齋藤秀雄だった。

齋藤先生には足かけ10年師事したんで



すが、バッハは常にそこにありました。レッスンでは毎回まず練習曲を徹底的にやった後で必ずバッハを弾き、それから初めてその時に練習しているソナタや協奏曲を教わるんです。先生の考え方は「我々日本人がこれから演奏していく作品の原点はバッハだ。特にチェリストは無伴奏チェロ組曲が理解できない限り、いかに指が回ろうが多彩なボウイングができようが、どれほど優れたテクニックの持ち主でも音楽のもつ本当の意味には到達できない」というもの。私が最初に取り組んだのは小学生の頃でしたが、齋藤先生は多声音楽(ポリフォニー)のことや細かなニュアンスまで、1から根気強く教えて下さいました。ただ先生は教

えるときにボウイングや強弱を楽譜に記入していられるので、そのうち書き込みで音符が読めないほどになり、黒鉛筆だけでは足りなくなって赤や青の色がどんどん増えていく……いまも最初の楽譜を持っていますが、ちょっと天然色の色合いですよ(笑)。しかしそうやって音楽の構造や舞曲に関する知識、解釈、奏法などについて叩き込まれたおかげで、たとえ現代の音楽であれ、どんな曲にも通じるものを得られたと思うんです。さらにアメリカに留学してシュタルケル先生に学んだときも音楽面で非常に厳しい教えを受けましたので、その辺が私のコア(核)になっているんじゃないでしょうか。

# 「こんな感じでいいでしょうか?」と バッハ先生に質問してみたい

そうした時期を経て堤さんは1969～70年にかけて、日本人として初めてのこの作品の全曲録音を達成。以来、計3回の録音がリリースされている。

いま考えると最初の録音は自分でも気が遠くなるようなプロジェクトでした。録音では演奏会と違ってマイクの向こうにお客様がいらっしゃるような“気持ち”で弾くんですが、マイクは非常に精密で、普段自分が気づいていないような欠点を沢山拾ってくださるんです。ほんの少し音程がずれてもわずかに音がかすれても、録音にはしっかり記録されてしまう。録音点数がとても多かったシュタルケル先生にレコード録音の意義を尋ねたときの、「その時点でその奏者が望みうる最高のものを残すことだ」という答えが今でも忘れられません。録音という状況の中で色々努力することによってその時のベストを作り上げていきたい、これは演奏家にとっての宿命みたいなものでしょうし、我々のレゾナントル(存在意義)でもあるような気がします。それでも1回目と3回目の録音を比べてみると、以前に比べてより自由に弾けるようにはなってきたかな。やはり若い頃は「自分はこう思う」「こんなバッハをつくってみたい」という思いが強かったけれど、今は「バッハはここをどんな風に弾いてほしかったんだろう」「この和声進行にはどんな意味があるんだろうか」と、少し距離を持ってバッハと「対話」する気持ちが出てきました。

その対話において、堤さんはどんな「言葉」でバッハと繋がろうとしておられるのだろうか。

私の楽器は1733年製(モンタニャーナ)で、ケーテン時代のバッハがこの作品を作曲した1720年代とほぼ同時期なんです。すでにモダン仕様になっていて弓もモダン・ボウを使うわけですが、それでもこの楽器を媒介にして、バッハの意図や思想に近づいていければと考えています。それともうひとつ、まだ東ドイツがあった時代にコンクールの審査員としてライブツィヒに招かれたとき、バッハの住んでいた家の隣にあるボーゼという裕福な商家の広間がサロンになっていたんですよ。ボーゼ一家と懇意にしていたバッハは、その広間でいつも自分の作品を聴いていたらしいんです。あるときそこで私が無伴奏組曲の第4番を弾く機会に恵まれて、するとそれまで分散和音の音楽だとばかり思っていた「ミミシシシシ……」などのフレーズが、その空間で弾くと音が残り、繋がってちゃんと多声音楽に聞こえてくるんです。「ああ、バッハはこういうところで聴いていたから、単音の連続じゃなくポリフォニーとして捉えることができたのか!」と、自分にとっての“大発見”をしました。それ以来、私のこの曲に対するアプローチは、そのボーゼハウスのサロンの音響を念頭に置いたものになっています。

さらに言うと、さいたま芸術劇場の音響



堤 剛 つつみ つよし ●チェロ

桐朋学園高等学校音楽科にて齋藤秀雄に師事。卒業後、米国インディアナ大学に留学し、J. シュタルケルに師事。63年、ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位。第2回鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、レコード・アカデミー賞、芸術祭優秀賞、日本芸術院賞など多数受賞。現在、霧島国際音楽祭音楽監督、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長を務める。日本芸術院会員。

の素晴らしいは皆さんご存じでしょうけれども、この音の作りがボーゼハウスの響き方と非常に似ているんです。サイズは違うんですよ、広いとはいえサロンなのでせいぜい小ホールぐらいの規模で。ただ私の実感としては本当によく似ていますので、今回の2日間にわたる演奏会でもボーゼハウスで得た「バッハはこういう風に聴いたであろう」という音楽づくりをしていきたいですね。そして、もしそこにバッハ先生が座っていらっしゃれば、「こんな感じでいいでしょうか?」と質問してみたい気がします。

## 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「バッハとの対話」

### 【Vol.1 & Vol.2】堤 剛 無伴奏チェロ組曲全曲演奏会

Vol.1 / 12月10日(土) 開演14:00

J. S. バッハ: 無伴奏チェロ組曲第1番 ト長調 BWV 1007  
無伴奏チェロ組曲第5番 ハ短調 BWV 1011  
無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調 BWV 1009

Vol.2 / 12月11日(日) 開演14:00

J. S. バッハ: 無伴奏チェロ組曲第4番 変ホ長調 BWV 1010  
無伴奏チェロ組曲第2番 二短調 BWV 1008  
無伴奏チェロ組曲第6番 二長調 BWV 1012

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

### 【シリーズ・セット券】

一般・メンバーズ: 正面席16,000円/バルコニー席13,000円(学生7,500円)

### 【Vol.1 & Vol.2、Vol.3 & Vol.4 通し券】

一般・メンバーズ: 正面席6,000円/バルコニー席5,000円(学生3,000円)

### 【各1回券】

一般: 正面席4,000円/バルコニー席3,000円(学生1,500円)

メンバーズ: 正面席3,600円

発売日: 各1回券 Vol.1～Vol.2 一般9月24日(土) メンバーズ9月17日(土)

※シリーズ・セット券、及びVol.1 & Vol.2通し券、Vol.3 & Vol.4通し券は発売中

※【Vol.3 & Vol.4】寺神戸亮 無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとバルティータ全曲演奏会【Vol.5 小山実稚恵の〈ゴルトベルク変奏曲〉の日時・曲目等はP.25にてご確認ください。

## 彩の国シネマスタジオ

LINE UP 2011.10-12

～町の小さな映画館でとっておきの映画の時間を～



### 『ダンシング・チャップリン』

チャップリンの名作の数々をバレエにしたローラン・ブティ 振付『ダンシング・チャップリン』を周防正行監督が映画化。初演からチャップリンを踊り続けるルイジ・ボニーノと、この作品がラスト・ダンスとなる草刈民代を迎え、最高に美しいバレエ映画が誕生した! 去る7月に急逝したブティが、作品について語る貴重な姿も収められている。

10月6日(木) 10:30/14:30/18:30 7日(金) 10:30/14:30/18:30  
8日(土) 10:30/14:30/18:30 9日(日) 10:30/13:50/17:00  
監督・構成=周防正行 出演=ルイジ・ボニーノ 草刈民代 ほか (2010年/日本/136分)

©2011 フジテレビジョン/東宝/アルタミラピクチャーズ/電通/スオズ

### A. 『シチリア! シチリア!』

### B. 『人生、ここにあり!』

『ニュー・シネマ・パラダイス』の名匠ジュゼッペ・トルナトーレ監督が、故郷シチリアを舞台に家族の愛と絆を描いた感動巨編『シチリア! シチリア!』と、世界で初めて精神科病院をなくした国、イタリアで起こった実話をもとにした『人生、ここにあり!』。私たちに元氣と勇気を届けてくれる、とびっきりのイタリア映画2本立て!

11月3日(木・祝) 10:30(A)/14:30(B)/18:30(A)  
4日(金) 10:00(B)/12:50(A)/16:10(B)/18:50(A)  
5日(土) 10:00(A)/13:30(B)/16:10(A)/19:30(B)  
6日(日) 10:00(B)/13:20(A)/17:00(B)

※3日(木・祝) 14:30上映終了後、日本医労連・精神部会会長 氏家憲章氏によるアフタートークがあります。



『シチリア! シチリア!』  
監督=ジュゼッペ・トルナトーレ  
出演=フランチェスコ・シヤンナ、マルガレット・マデ ほか  
(2009年/イタリア/151分)  
©2009 MEDUSA FILM



『人生、ここにあり!』  
監督=ジュリオ・マンフレドニア  
出演=クラウディオ・ビジオ、アニータ・カプリオーリ ほか  
(2008年/イタリア/111分)  
©2008 RIZZOLI FILM



©2010 See-Saw Films. All rights reserved.

### 『英国王のスピーチ』

幼い頃から吃音に悩む英国王ジョージ6世が、型破りのセラピストとの友情、強く優しい妻の愛情に支えられ、国民に愛される本当の王になるまでを描いた感動の実話。アカデミー賞作品賞・主演男優賞、脚本賞・監督賞、各国の映画賞を総ナメにした今年最高の話題作。

12月16日(金) 10:30/14:30/18:30  
17日(土) 10:00/13:10/16:05/19:00  
18日(日) 10:00/13:10/16:05

※16日(金) 14:30上映終了後、映画評論家・石子 順氏によるアフタートークがあります。

監督=トム・フーパー  
出演=コリン・ファース、ジェフリー・ラッシュ、ヘレナ・ボナム・カーター ほか  
(2010年/イギリス・オーストラリア合作映画/118分)

### 熊谷会館上映会 12月

### 優秀映画鑑賞推進事業 小津安二郎監督特集

### A. 『麦秋』 B. 『東京物語』 C. 『彼岸花』 D. 『秋刀魚の味』

～懐かしの映画をワンコインで～

親子の関係、家族の絆、老いと死。巨匠・小津安二郎監督が、静かに語りかける珠玉の4作品。

12月20日(火) 10:30(B)/13:50(A)/17:00(D)  
21日(水) 10:30(D)/13:20(B)/17:00(C)

※21日(水) 13:20上映終了後、映画評論家・田島良一氏によるアフタートークがあります。

『麦秋』 出演=原 節子、笠 智衆、杉村春子 ほか (1951年/125分)  
『東京物語』 出演=原 節子、笠 智衆、東山千栄子 ほか (1953年/136分)  
『彼岸花』 出演=佐分利信、有馬稲子、山本富士子 ほか (1958年/118分)  
『秋刀魚の味』 出演=若下志穂、笠 智衆、岡田茉莉子 ほか (1962年/113分)



A. 『麦秋』



B. 『東京物語』



C. 『彼岸花』



D. 『秋刀魚の味』

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 映倫ホール ※12月の「小津安二郎監督特集」は、熊谷会館で上映いたします。

【料金】 大人一律1,000円 小中高生800円 ※12月の「小津安二郎監督特集」は、大人・小中高生とも1作品500円です。 ※当日支払いのみ。





## ■サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／埼玉りそな銀行  
(株)パシフィックアートセンター／(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス(株)／カヤバ システム マンナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや  
森平舞台機構(株)／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株)／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル  
(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)／埼玉スバル自動車(株)／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所  
(株)太陽商工／(株)しまむら／アイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／不動開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ  
(有)プラネット／関東自動車(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／(株)中島運輸／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／丸美屋食品工業(株)／ポラスグループ  
ひがし歯科／(株)日産サテオ埼玉／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／医療法人 顕正会 蓮田病院  
(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス  
(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)綜合舞台／(株)タクトコーポレーション／広総業(株)／(財)さいたま住宅検査センター／(株)コマーム  
相川 宗一／(株)国大セミナー／(株)NEWSエンターテインメント／(株)オーガス／イープラス／六三四堂印刷(株)／医療法人 樺会 林整形外科

H23.8.15現在／一部未掲載

【問合せ先】(公財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2011.9-10

平成23年9月15日発行35号(隔月15日発行) 第35号(9月-10月) 発行人:竹内文則 発行:公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500